

【開催実績】持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議

開催年	国際会議名	開催期間	会場	主催・共催	参加者数	主な講演者(基調講演者)	声明
2003年 (H15年)	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2003 -エネルギーと持続可能な社会のための科学- International Conference on Science and Technology for Sustainability 2003 -Energy and Sustainability Science- ・委員長 吉川弘之	平成15(2003)年12月16日(火)～19日(金) (4日間)	三田共用会議所 (東京)	主催:日本学術会議 共催:IGSU,UNU,UNU/IAS,AIST 協力:IAP,IGBP,IHDP,WCRP,START,TWAS,SCA,ISTS,APN,DIVERSITAS,PSA	延べ約800名、海外から22名参加	・W. Clark (Professor, Harvard University, USA) ・P. Hennicke (President, Wuppertal Institute, Germany) ・N. Nakicenovic (Project Leader, IIASA, Austria) ・J. Edmonds (Chief Scientist, University of Maryland, USA) ・R. Ayres (Sandoz Professor, INSEAD, France) ・P. Nijkamp (Chairman, Netherlands Organisation for Scientific Research, Netherlands)	有
2004年 (H16年)	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2004 -アジアの巨大都市と地球の持続可能性- International Conference on Science and Technology for Sustainability 2004 - Asian Megacities and Global Sustainability- ・委員長 黒川 清(第2部会員)	平成16(2004)年11月10日(水)～12日(金) (3日間)	日本学術会議	主催:日本学術会議 共催:IGSU,UNU,UNU/IAS 協力:IAC,IAP,IHDP,PSA,SCA	各日250名	・R. May(President, The Royal Society, UK) ・S. Omi (Regional Director, Western Pacific Regional Office of WHO, Philippines) ・J. Lin(Deputy Director, Department of Social Development Research, Development Research Center, The State Council of P.R.C., China) ・B. Göbel (Executive Director, IHDP, Germany) ・L. Branscomb (Professor Emeritus Harvard University, USA) ・M. Grant (President, University College London, UK)	有
2005年 (H17年)	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2005 -アジアのダイナミズムと不確実性- International Conference on Science and Technology for Sustainability 2005 - Dynamism and Uncertainty in Asia - ・委員長 黒川 清(第2部会員)	平成17(2005)年9月9日(金)～10日(土) (2日間)	国立京都国際会館	主催:日本学術会議 共催:UNU,UNU/IAS 後援:読売新聞社	各日50名、海外から29名参加 ※クローズド形式	・Brahma Chellaney(Center for Policy Research (India)) ・Charlotte Virginia Kuh(National Research Council (USA)) ・Akihiko Tanaka (Institute of Oriental Culture, The University of Tokyo (Japan)) ・Jusuf Wanandi(Centre for Strategic and International Studies (Indonesia))	無
2006年 (H18年)	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2006 -グローバル・イノベーション・エコシステム- International Conference on Science and Technology for Sustainability 2006 -Global Innovation Ecosystem- ・委員長 黒川 清(第2部会員)	平成18(2006)年9月8日(金)～9日(土) (2日間)	国立京都国際会館	主催:日本学術会議(SCJ),経済社会総合研究所(ESRI) 科学技術政策研究所(NISTEP),科学技術振興機構(JST) 後援:日本経済団体連合会,関西経済連合会, 京都商工会議所,朝日新聞社, 日本経済新聞社,毎日新聞社,読売新聞社	延べ約250名 講演者44名(含む海外招へい者23名(12カ国))	・石倉 洋子 一橋大学大学院国際企業戦略研究科教授<チェアパーソン> ・Nathan Rosenberg 米・スタンフォード大学経済学名誉教授 ・Luke Georghiou 英・マンチェスター大学人文学部研究担当副学部長 ・Swan Gin Beh シンガポール経済開発庁バイオサイエンス局長 ・Ku-Hyun Jung 韓・サムスン経済研究所所長 ・村田 純一 村田機械株式会社会長、京都商工会議所会頭 ・有本 建男 経済社会総合研究所総括政策研究官	無

開催年	国際会議名	開催期間	会場	主催・共催	参加者数	主な講演者(基調講演者)	声明
2007年 (H19年)	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2007 －国際開発協力－ International Conference on Science and Technology for Sustainability 2007 －International Cooperation for Development－ ・委員長 河野 長(第3部会員)	平成19(2007)年9月7日(金)～8日(土) (2日間)	日本学術会議	主催:日本学術会議(SCJ) 共催:一橋大学21世紀COEプログラム 現代経済システム の規範的評価と社会的選択 後援:外務省、国際連合大学(UNU)、 国際連合大学高等研究所(UNU－IAS))、 国際連合開発計画(UNDP)、 (独)国際協力機構(JICA)、 朝日新聞社、日本経済新聞社、毎日新聞社、 読売新聞社	約250名 講演者18名(含む海外 招へい者8名(6カ国))	・Partha Dasgupta(ケンブリッジ大学フランク・ラムゼイ記念経済学教授) ・速水佑次郎(国際開発高等教育機構顧問)	有
2008年 (H20年)	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2008 －持続可能な福祉を求めて－ International Conference on Science and Technology for Sustainability 2008 －In Search of Sustainable Well-Being－ ・委員長 鈴木 興太郎(第1部会員)	平成20(2008)年9月12日(金)～13日(土) (2日間)	東京ステーションコンファレンス	主催:日本学術会議(SCJ) 共催:一橋大学経済研究所世代間問題研究プロジェクト 「世代間問題の経済分析」 後援:(予定)国際連合大学(UNU)、国際連合大学高等研究所 (UNU-IAS)、 東京大学サステイナビリティ学連携研究機構、 日本経済新聞社	約200名 講演者15人(海外7人 (6カ国(5カ国1機関)))	・Prasanta Pattanaik(カルフォルニア大学リバーサイド校名誉教授) ・A.H.Zakri(国際連合大学高等研究所所長)	無
2009年 (H21年)	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2009 －グローバルな食料の安全保障－ International Conference on Science and Technology for Sustainability 2009 －Global Food Security and Sustainability－ ・委員長 宮崎 毅(連携会員)	平成21(2009)年9月17日(木)～18日(金) (2日間)	日本学術会議	主催:日本学術会議(SCJ) 共催:(独)国際農林水産業研究センター 後援:国際連合大学(UNU)、 国際連合大学高等研究所(UNU－IAS)、 日本経済新聞社	延べ約180名 講演者15名(うち外国人 8名(海外招へい7名＋ IAP出席者1名))	・Rattan Lal(オハイオ州立大学環境天然資源研究科教授) ・大塚啓二郎(財団法人国際開発高等教育機構)	無
2010年 (H22年)	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2010 －生物多様性の保全と持続可能な利用－ International Conference on Science and Technology for Sustainability 2010 －Conservation and Sustainable Use of Biodiversity－ ・委員長 鷲谷 いづみ(第2部会員)	平成22(2010)年12月16日(木)～17日(金) (2日間)	ホテル金沢(石川県金沢市)	主催:日本学術会議(SCJ) 後援:環境省、石川県、国際連合大学(UNU)、日本経済新聞社	延べ約200名 講演者14名(含む外国人 招へい者7名)	・Anantha Duraiappah(IHDP)事務局長 ・Ahmed Djoghlaif(UNEP)事務局長	有
2011年 (H23年)	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2011 グローバルな持続性の構築に向けて－アジアからの視点－ International Conference on Science and Technology for Sustainability 2011 －Building up Regional to Global Sustainability:Asia vision－ ・委員長 安成 哲三(第3部会員)	平成23(2011)年9月14日(水)～16日(金) (3日間)	国立京都国際会館(京都市)	主催:日本学術会議(SCJ) 共催:総合地球環境学研究所、名古屋大学グローバルCOEプログラム、東北大学グローバルCOEプログラム、北海道大学グローバルCOEプログラム 後援:国際科学会議(ICSU)、国際連合大学(UNU)、日本経済新聞社	延べ約240名 講演者26名(含む外国人 招へい者20名、うち国内 在住者1名)	・Deliang Chen(ICSU事務局長)	有
2012年 (H24年)	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2012 災害復興とリスク対応のための知 International Conference on Science and Technology for Sustainability －Wisdom for Recovery from Disasters and Risk Control－ ・委員長 生源寺 真一(第2部副部長)	平成25(2013)年1月17日(木)～18日(金) (2日間)	日本学術会議 講堂	主催:日本学術会議(SCJ) 後援:国際連合大学(UNU)、日本経済新聞社	延べ約 183名 講演者17名(含む外国人 招へい者6名、うち国内 在住者1名)	・Kiyoshi Kurokawa(政策研究大学院大学、元日本学術会議会長) ・Mohamed H. A. Hassan(IAP)CO－Chair	
2013年 (H25年)	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2013 巨大複合災害(地震・津波・原子力発電所事故)－影響波及と対策、及び将来に向けての政策選択 (Colossal Multiple Disaster (Earthquake, Tsunami, and Nuclear Plant Accident -----Repercussions, Countermeasures, and Future Policy Choices)	平成25(2013)年10月9日(水)～10日(木) (2日間)	日本学術会議 講堂	主催:日本学術会議(SCJ) 共催:ICSU,IAP,IAC、国際連合大学(UNU) 後援:日本経済新聞社	延べ約184名 講演者13名(含む外国人 招へい者3名)	・Yuan Tseh Lee(ICSU会長) ・Robbert Dijkgraaf (IAC共同議長) ・北澤宏一(福島原発事故独立検証委員会委員長)	

開催年	国際会議名	開催期間	会場	主催・共催	参加者数	主な講演者(基調講演者)	声明
2014年 (H26年)	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2014 地球持続性に向けた学術の統合と人材育成 International Conference on Science and Technology for Sustainability –Transdisciplinarity for Grobal Sustainability: Strategies for Research and Capacity Building– ・委員長 武内 和彦(日本学術会議連携会員)	平成26(2014)年7月18日(金) (1日間)	日本学術会議 講堂	主催:日本学術会議(SCJ) 共催:国際連合大学(UNU)	延べ約187名 講演者6名(含む外国人 招へい者3名)	・安成 哲三(人間文化研究機構総合地球 環境学研究所所長) ・杉原 薫(政策研究大学院大学特別教授) ・Frans Berkhout(フューチャー・アース暫定 事務局長) ・氷見山 幸夫(北海道教育大学教授) ・R. B. Singh(デリー大学教授) ・Eun-kyung Park(韓国ESD委員会委員長)	
2015年 (H27年)	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2015 フューチャー・アース International Conference on Science and Technology for Sustainability –Future Earth– ・委員長 花木 啓祐(日本学術会議第三部会員)	平成27(2015)年11月15日(日) (1日間)	日本学術会議 講堂	主催:日本学術会議(SCJ) 共催:Future Earth、東京大学サステイナビリティ学連携研 究機構、総合地球環境学研究所、国際連合大学、国立環 境研究所	延べ約87名 講演者17名(含む外国 人招へい者6名)	・ユアン・ツェー・リー(元ICSU会長) ・安岡善文(東京大学名誉教授) ・ポール・スリバスタバ(Future Earth国際事 務局長) ・武内和彦(国際連合大学上級副学長、東 京大学教授) ・安成 哲三(人間文化研究機構総合地球 環境学研究所所長) ・蟹江憲史(Future Earth日本ハブ副事務局 長) ・瀧 順一(日本経済新聞社解説委員兼編 集委員) ・谷口 真人(総合地球環境学研究所・教 授)	
2016年 (H28年)	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2016 持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けた超学際研究とマルチス テークホルダー協働の推進 International Conference on Science and Technology for Sustainability –Promoting Transdisciplinary Research and Multi-stakeholder Collaboration for Achieving the Sustainable Development Goals– ・委員長 武内 和彦(日本学術会議第二部会員)	平成29(2017)年1月27日(金) (1日間)	日本学術会議 講堂	主催:日本学術会議(SCJ) 共催:国際連合大学サステイナビリティ高等研究所 後援:外務省、文部科学省、環境省、SDSN Japan、Future Earth、CSOネットワーク、SDGs市民社会ネットワーク	延べ約245名 講演者10名(含む外国 人招へい者3名)	・シャムシャド・アクタール(国際連合事務次 長兼国連アジア太平洋経済社会委員会事 務局長) ・ロバート・メッケ(ロイヤル・フィリップス社イ ノベーション戦略部長) ・田中 明彦(前JICA理事長、東京大学東 洋文化研究所教授(当時))	
	AASSA 地域ワークショップ 包摂的な社会のための科学の役割 AASSA Regional Workshop –Role of Science for Inclusive Society ・委員長 吉野 博(日本学術会議第三部会員)	平成29(2017)年3月1日(木)～ 2日(金) (2日間)	日本学術会議 6-C会議 室	主催:日本学術会議(SCJ)	延べ約90名 講演者52名(含む外国 人招へい者22名)	・安成 哲三(総合地球環境学研究所所長) ・Khairul Anuar Abdullah(Vice-Chancellor, Academy of Sciences Malaysia & MAHSA University) ・Cheryl Praeger(Foreign Secretary, Australian Academy of Science)	
2017年 (H29年)	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2017 ー災害レジリエンス構築のための科学・技術国際フォーラム2017ー International Conference on Science and Technology for Sustainability 2017 –Global Forum on Science and Technology for Disaster Resilience 2017– ・委員長 小池 俊雄(日本学術会議第三部会員)	平成29(2017)年11月23日(木) ～25日(土) (3日間)	日本学術会議 講堂等	主催:日本学術会議(SCJ)、UNISDR(国連国際防災戦略事 務局)、ICSU(国際科学会議)、IRDR(災害リスク統合研究計 画)、ICHARM(水災害・リスクマネジメント国際センター)、 NIED(防災科学技術研究所)			有